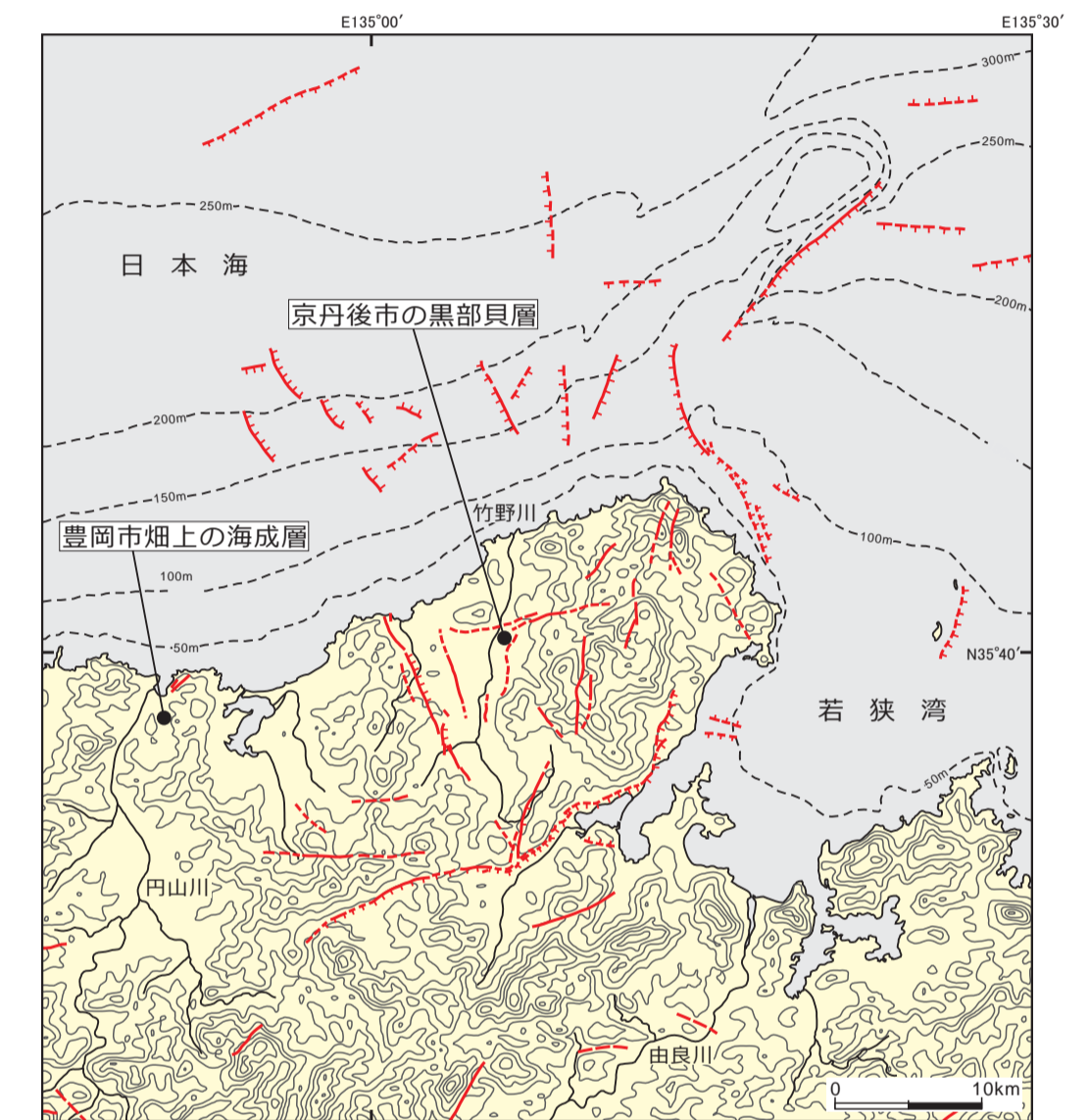


山陰海岸東部に分布する中期更新世の海岸段丘の形成年代を明らかにして、隆起速度を推定する



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ 加藤 茂弘

丹後半島周辺の日本海沿岸には幅の狭い海岸段丘が、標高5～50mに分布します。海岸段丘の形成年代と分布高度から隆起速度を計算でき、隆起速度の地域毎の違いから、郷村断層などの丹後半島やその周辺地域に分布する活断層の活動度の違いを推定できます。海岸段丘は12～13万年前に形成されたとされていますが、50～60万年前に形成されたとする説もあり、年代は確定していません。そこで豊岡市畑上や京丹後市黒部に分布する海成粘土層から産出するハイガイやサルボウガイなどの貝殻を試料とし、電子スピン共鳴（Electron Spin Resonance；ESR）法という手法を用いて年代測定を行い海岸段丘の形成年代を決定する研究を、昨年度から進めています。



山陰海岸東部の活断層と中期更新世の主な海成層の分布



- A：貝化石を含む豊岡市畑上の青灰色の海成粘土層
- B：海成粘土層から掘り出したハイガイの化石
- C：京丹後市黒部の黒部貝層に密集して産する貝化石
サルボウガイやウミニナなどの干潟の貝を多産する。
- D：黒部貝層を中～下部に挟む海成堆積物から構成される
標高約20mの海岸段丘面
(CとDの写真は松原典孝兵庫県立大学講師より提供頂いた)